

「日本人とテレビ 2010」調査結果の要約

〔調査の概要〕

テレビ視聴行動や視聴意識の長期的な変化をとらえるため1985年から5年ごとに実施している調査。今回、調査項目を見直し、調査方法も配付回収法に変更した。ただし、時系列比較のため、今回に限り従来と同じ質問で個人面接法でも実施。

<配付回収法>

調査日：2010年3月6日（土）～14日（日） 調査方法：配付回収法
調査対象：全国の16歳以上の国民 調査相手：3,600人（住民基本台帳から層化無作為二段抽出（300地点×12人）
有効数（率）：2,710人（75.3%）

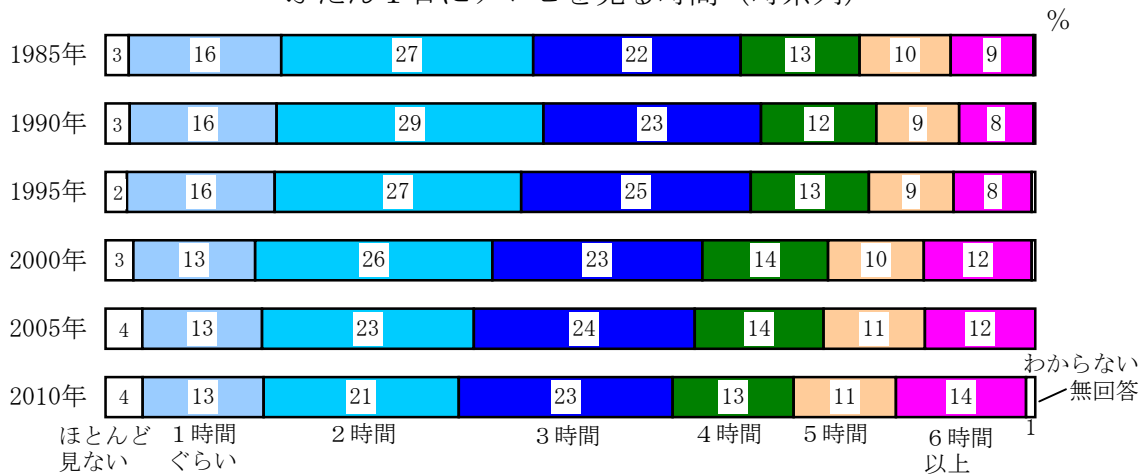
<個人面接法>

調査日：2010年3月6日（土）～7日（日） 調査方法：個人面接法
調査対象：全国の16歳以上の国民 調査相手：1,800人（住民基本台帳から層化無作為二段抽出（150地点×12人）
有効数（率）：1,046人（58.1%）

1 テレビ視聴時間

○ テレビ視聴時間は、1990年以降「2時間以下」の人が減る一方で、「4時間以上」の人が増え、全体として長時間化している。

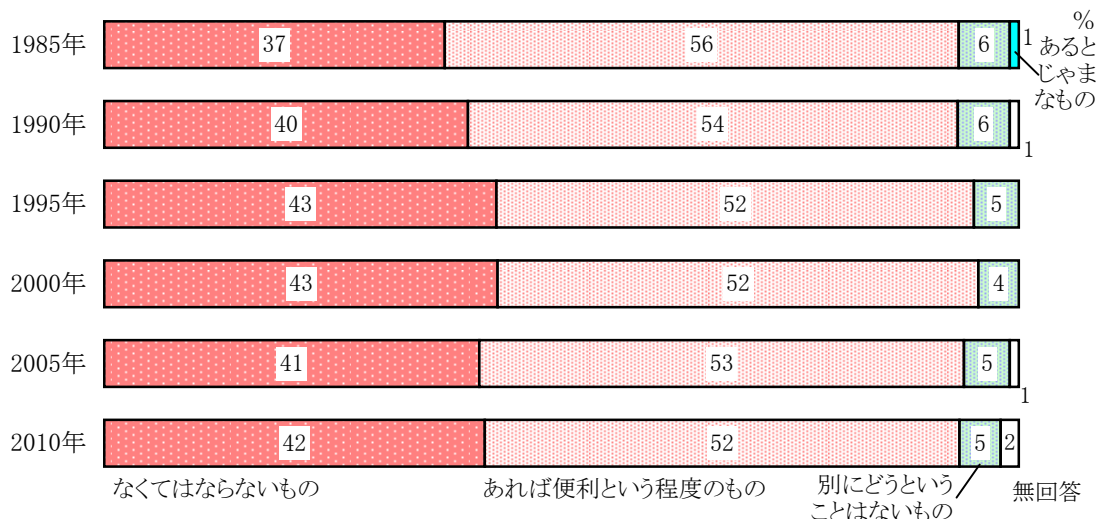
ふだん1日にテレビを見る時間（時系列）



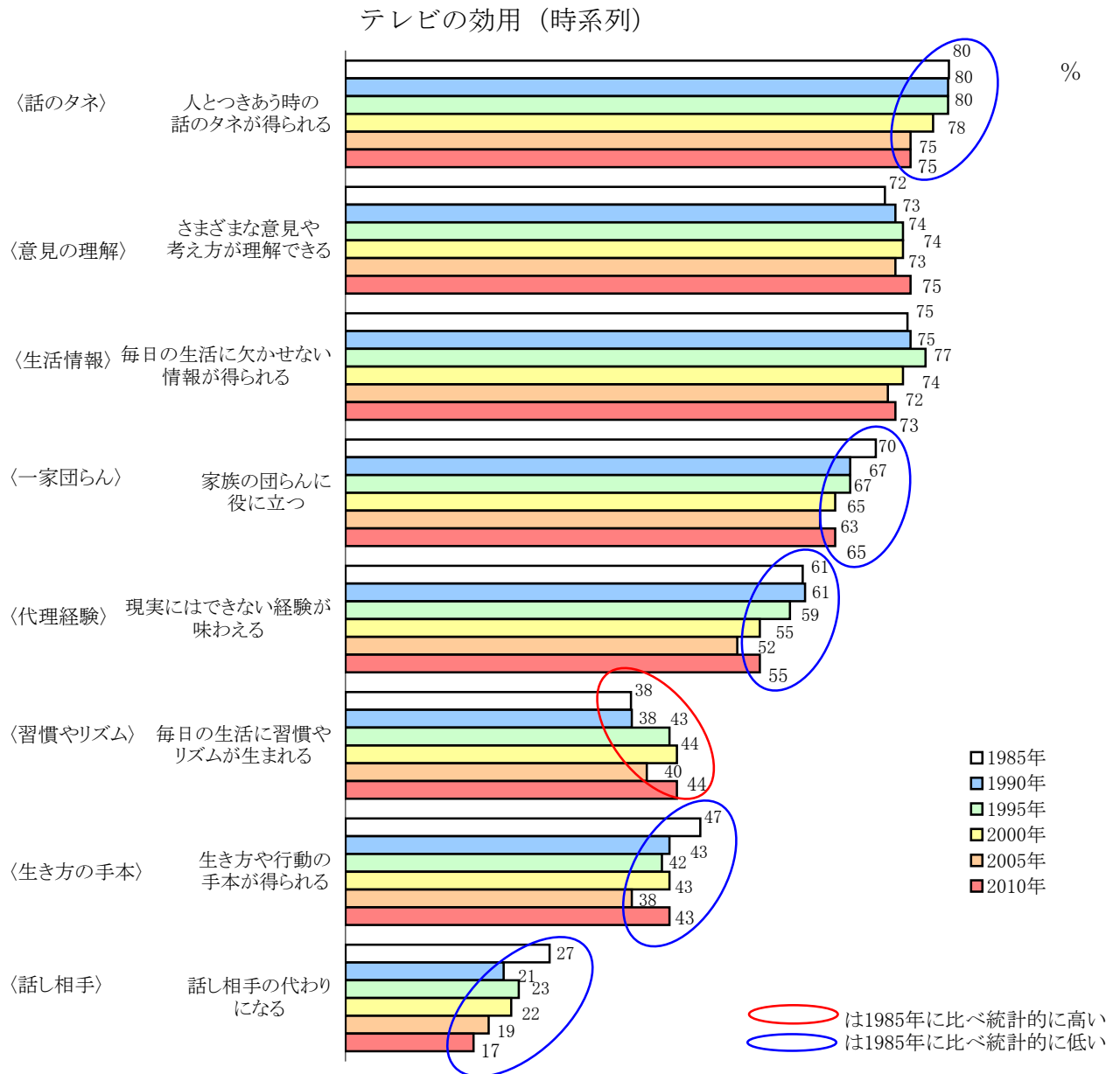
2 テレビに対する評価

○ テレビはひとこと言えばどんな感じのものか尋ねたところ、1985年から1995年にかけて「なくてはならないもの」が増加したが、1995年以降は変化がみられず、テレビの重要度は変わっていない。

テレビの重要度（時系列）



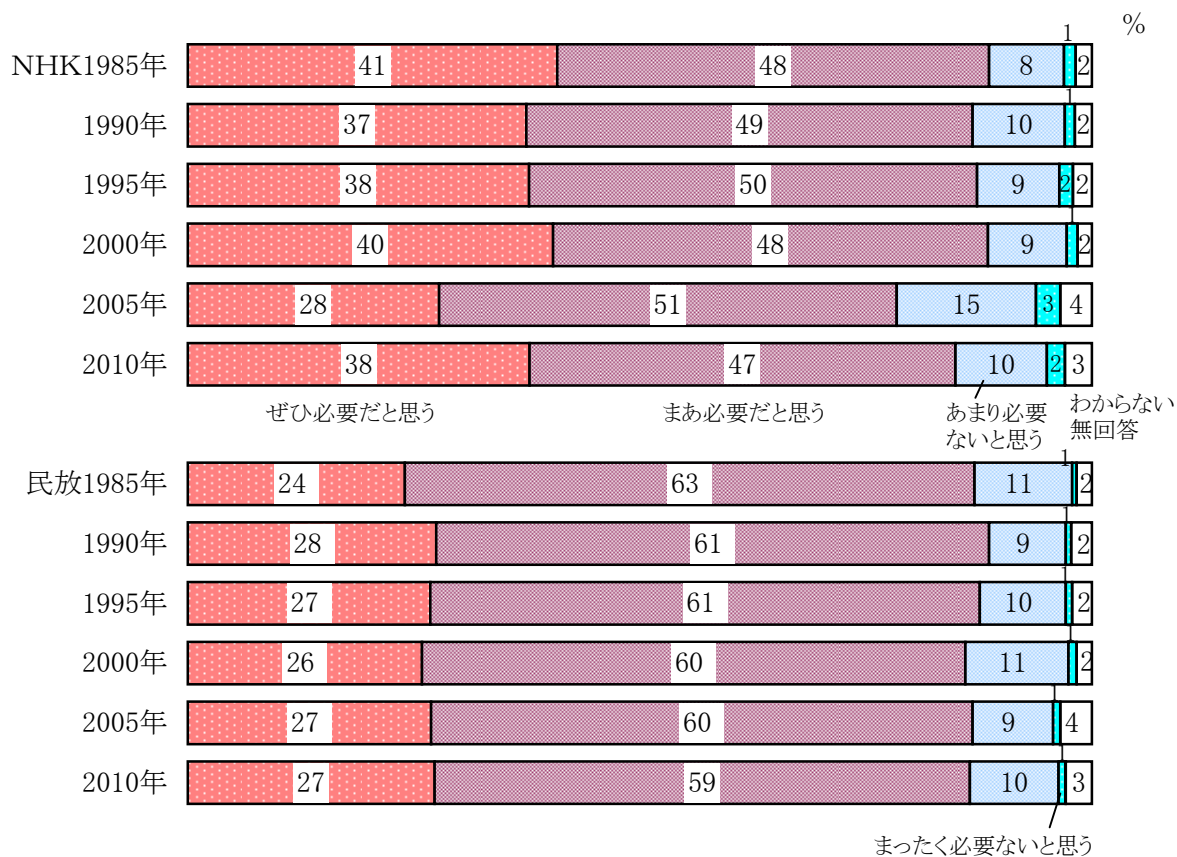
○ テレビの効用を8項目並べ、そう思うかどうかを尋ねた。70%以上の人が「そう思う」と答え評価が高いのは<話のタネ><意見の理解>など情報入手面で、この傾向はこれまでと変わっていない。1985年と比べると<話のタネ><一家団らん>などで減少している。



3 NHKに対する評価

○ NHKを「ぜひ必要だと思う」人は2005年に減少したが、今回は増加し、2000年と同程度に戻った。

NHKと民放の必要性（時系列）



○ NHKのテレビに対する評価で2005年から変化のあった項目をまとめた。

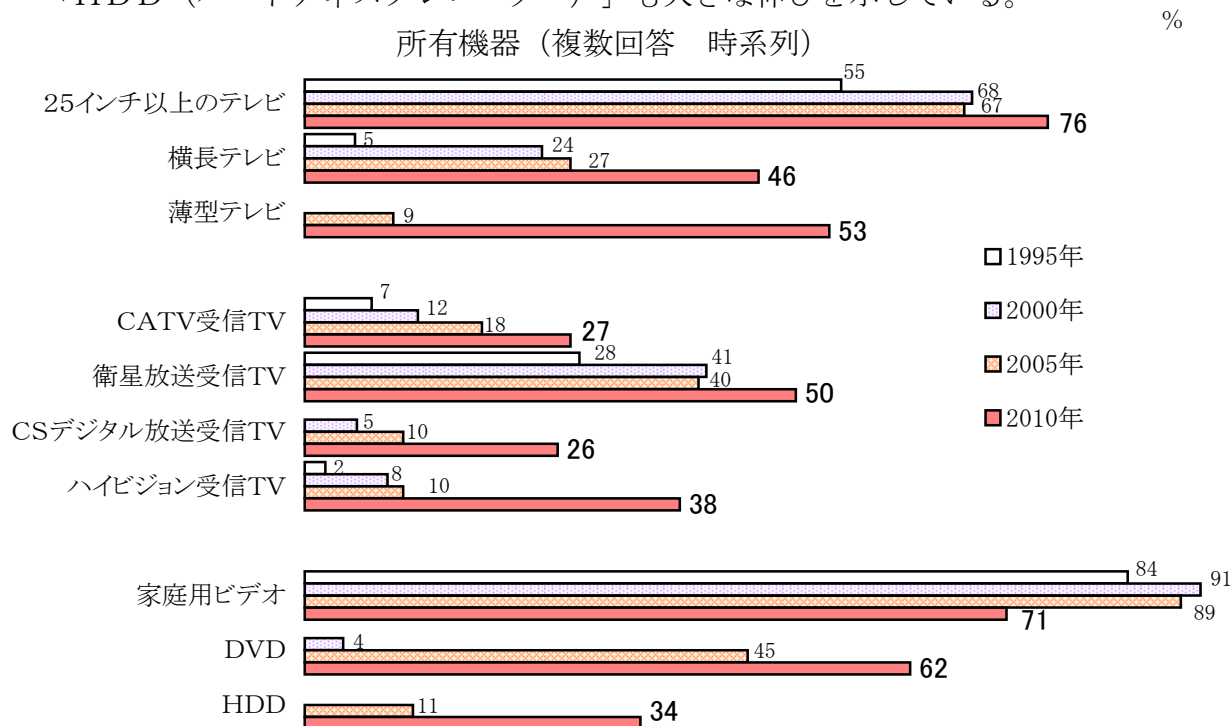
「地域の出来事や話題を、よく伝えている」など変化した項目はすべて増加しており、おおむね2000年のレベルに戻っている。

NHKの評価で変化のあった項目（時系列）

	2000年		2005年		2010年
地域の出来事や話題を、よく伝えている	37	>	34	<	39
報道番組が中立・公正である	35	>	25	<	32
報道番組の掘り下げ方が深い	25	>	20	<	25
新鮮な感じのする番組がある	25	>	17	<	24
自分の気持ちにぴったり合う番組がある	23	>	18	<	21

4 メディア環境

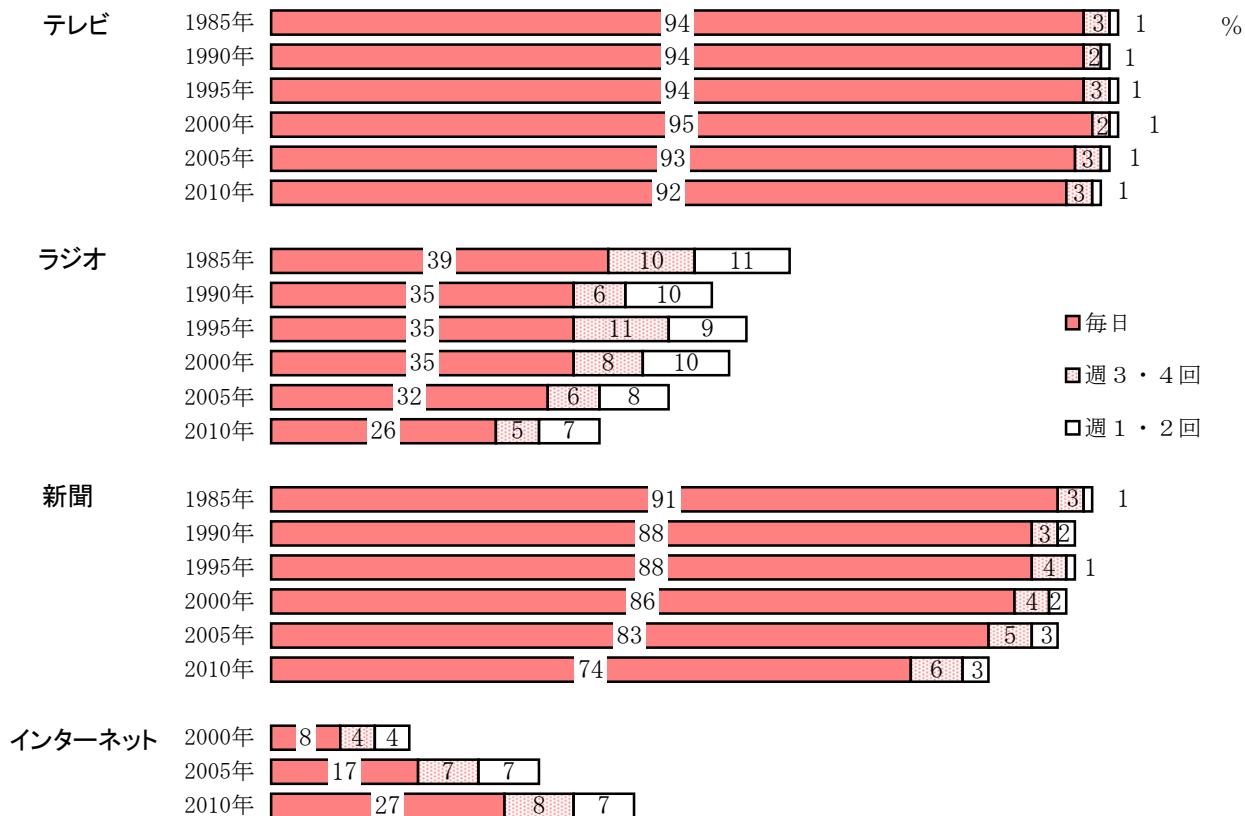
- 家庭内でのメディア所有機器に関しては、5年前と比べ、「25インチ以上のテレビ」「薄型テレビ」が増加しており、テレビの大型化・薄型化が進んでいる。「HDD（ハードディスクレコーダー）」も大きな伸びを示している。



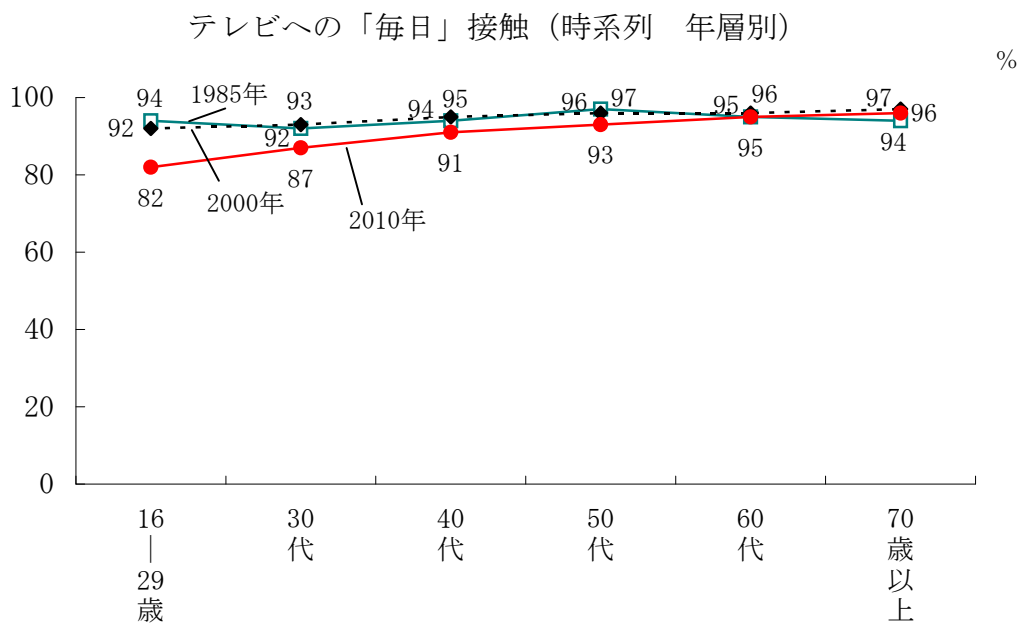
5 メディア別接触頻度

- 毎日接触している人は、テレビはあまり変化がなく安定している。新聞、ラジオはいずれも減少しており、ここ5年の減少幅が大きい。

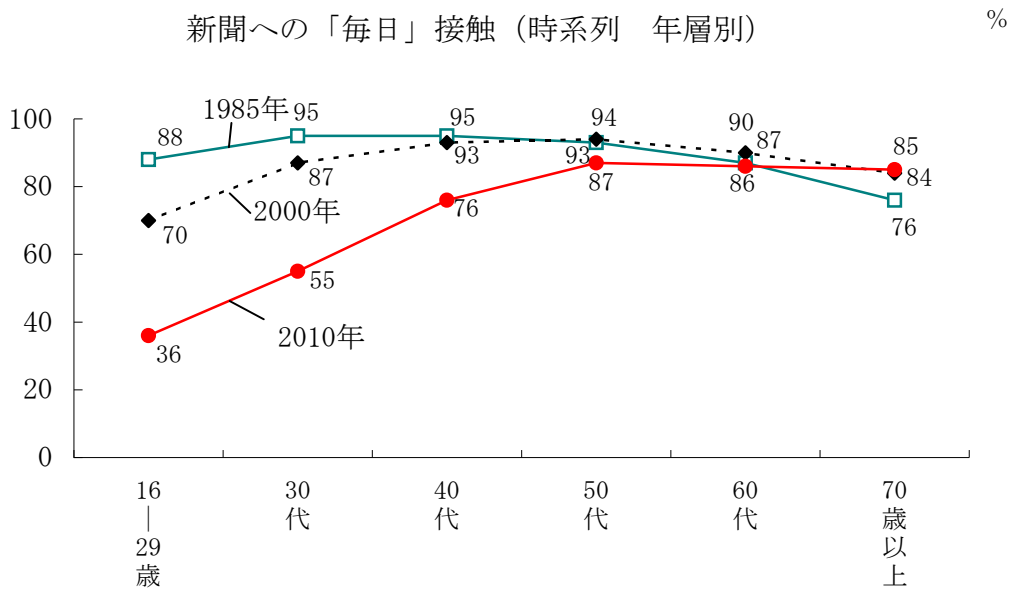
メディア別接触頻度（時系列）



○ テレビに「毎日」接触する人は、1985年と比較すると、30代以下と50代で減少している。



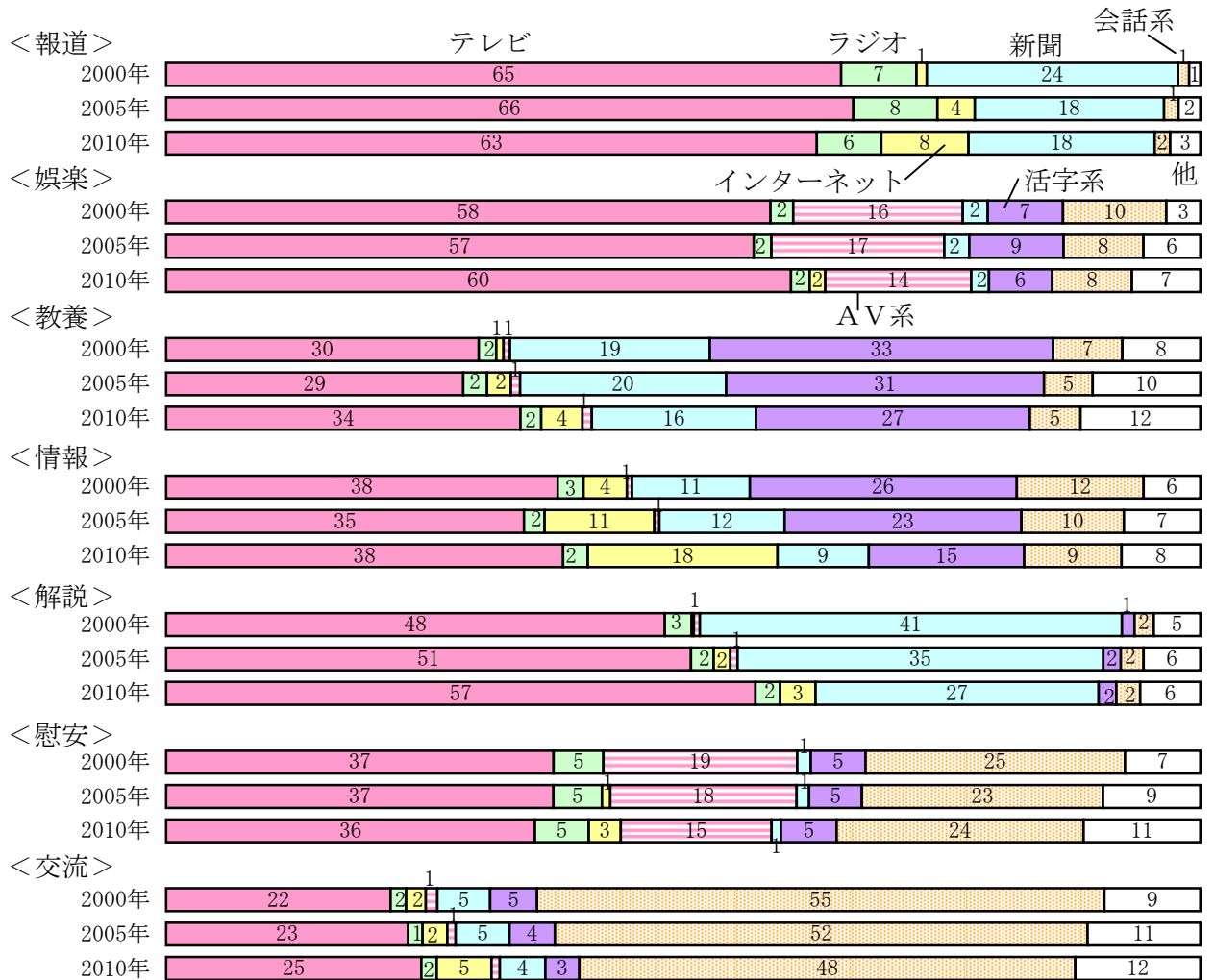
○ 新聞は、1985年と比較すると、50代以下で減少している。



6 メディアの効用比較（役に立つメディア）

○ 報道、娯楽、教養など7つの機能について、それぞれいちばん役に立つと思うメディアを答えてもらった。テレビは＜交流＞以外では「いちばん役に立つ」が多く、広範囲に評価されている。＜情報＞ではインターネットが新聞を上回り、テレビに次いで多くなっている。＜解説＞ではテレビが増加し、新聞が減少している。

メディアの効用比較（役に立つメディア）（時系列）



AV系・・・CD・MD・テープ＋映画・ビデオソフト
 活字系・・・週刊誌＋タウン誌・情報誌＋本
 会話系・・・家族との話＋知人との話
 他・・・この中にはない＋わからない、無回答

＜報道＞世の中の出来事や動きを知るうえで

＜娯楽＞感動したり、楽しむうえで

＜教養＞教養を身につけるうえで

＜情報＞生活や趣味に関する情報を得るうえで

＜解説＞政治や社会の問題について考えるうえで

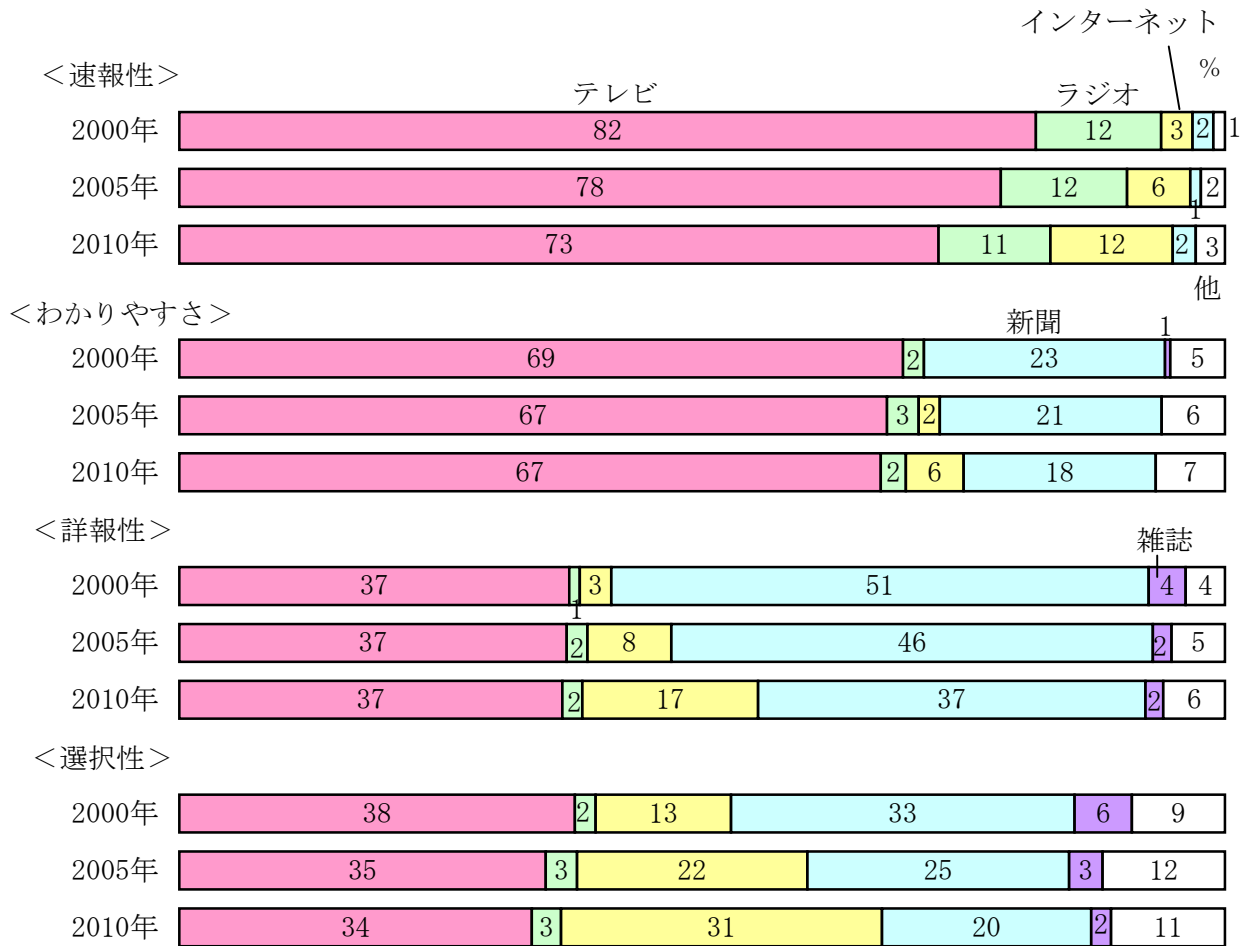
＜慰安＞疲れを休めたり、くつろぐうえで

＜交流＞人とのつきあいを深めたり、広げたりするうえで

7 メディアの特性比較（ニュースや情報を知るうえで）

- 「ニュースや情報を知る」場合でも、＜速報性＞＜わかりやすさ＞＜詳報性＞＜選択性＞の4つの機能すべてでインターネットが増加している。テレビは＜速報性＞で減少している。

メディアの特性比較(ニュースや情報を知るうえで評価するメディア)(時系列)

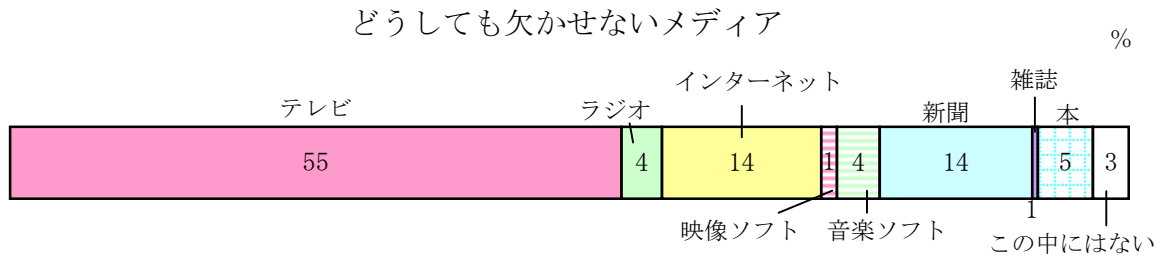


他・・・家族・知人との話+この中にはない+わからない、無回答

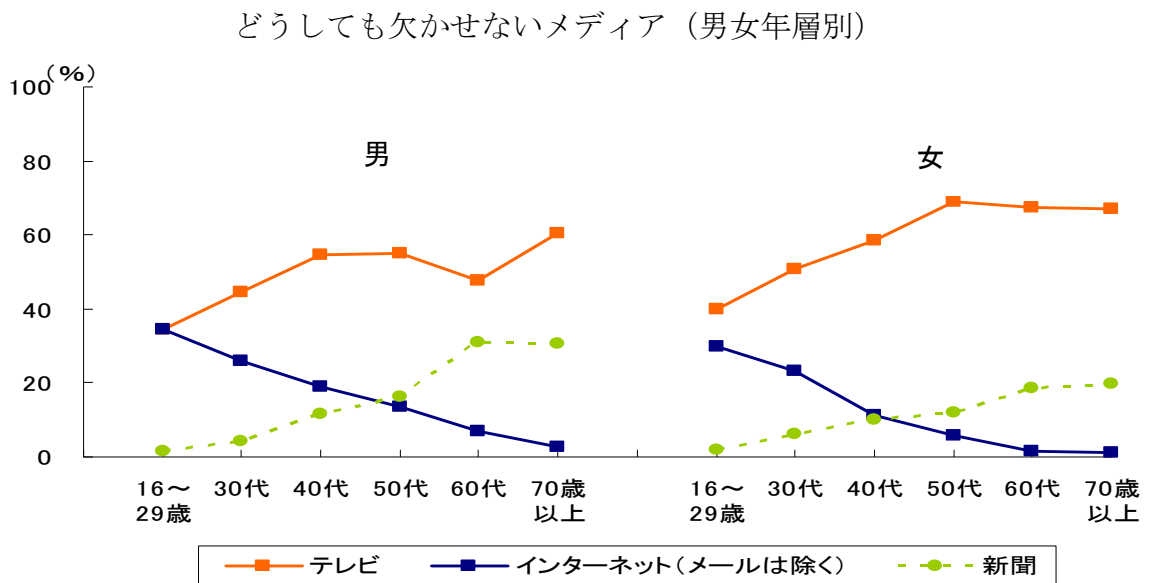
＜速報性＞いちばん早く伝わるとするのは ＜わかりやすさ＞いちばん理解しやすいのは
 ＜詳報性＞いちばん詳しく知ることができるのは ＜選択性＞必要なものだけ、いちばん選びやすいのは

8 欠かせないメディア

○ 各メディアの中から「どうしても欠かせないもの」を1つ選んでもらった。テレビが最も多く、インターネットと新聞が並んでいる。



○ 男女年層別にみると、男16～29歳では、「インターネット」が「テレビ」と同じ35%で最も欠かせないメディアになっている。



※なお、この調査の詳細な結果分析の報告は「放送研究と調査」2010年8月号に掲載予定です。